

## 第1回 整備基本計画専門部会 会議録

開催日時：平成23年9月29日（木）17時半～19時半

開催場所：町田市役所 森野分庁舎

出席委員：（敬称略）

細見正明、藤倉まなみ、杉山昌弘、高橋清人、金子忠夫、伊東和憲、小林美知、  
片岡慎泰、藤井修

事務局

宗田隆由、田後真人、内山重雄、水越祐介、佐藤正心、篠崎陽彦、大塚和美  
千葉雅英、重田和也、深澤香織、内山俊典、黒須桂子、菊池賢治、新海良文

傍聴者：7名

《次第》

（議事）

開会

1. 施設整備基本計画専門部会の目的と作業計画
2. 計画施設規模について
3. 計画ごみ質について
4. 第4回検討委員会におけるご質問事項への回答
5. 事務連絡

閉会

《配布資料》

資料1：整備基本計画専門部会 第1回会議次第

資料2：整備基本計画専門部会 第1回会議資料

資料3：第4回検討委員会におけるご質問事項への回答

## 第1回 整備基本計画専門部会議事録要旨

### 1. 開会

○環境資源部部長より開会挨拶

○部会長の選任

事務局一任                      部会長   ：細見委員

細見委員より推薦              副部会長：藤倉委員

### 2. 施設整備基本計画専門部会の目的と作業計画

○資料2「整備基本計画専門部会 第1回会議資料」を事務局から説明

(高橋清人委員)

ごみメタン化施設は、新しい施設なのでエネルギー回収推進施設の検討と同時並行が望ましい。

(細見部会長)

そのような趣旨で進める。今日の資料は委員会の始めの段階の物だった。

(小林委員)

昨日の候補地選定専門部会を傍聴したが、施設規模がはっきりしないと進まないという意見があった。焼却施設とメタン化施設を一緒にするのかどうか、大まかな物を先に意見交換しておかないと。

(事務局)

そのとおりと考えている。焼却施設とメタン化施設が単独か、一緒かのそれぞれメリット・デメリットを議論頂きたい。

(藤井委員)

資源化設備はエネルギー回収設備の後と書いているが、平行して検討するのであれば、その資料が必要。

(事務局)

スケジュールを修正しなければいけないという事で、メタン化施設検討を前倒し、資源化施設も含めたものを考えて頂きたい。

### 3. 計画施設規模について

○計画施設規模をコンサルタントから説明

(片岡委員)

プラスチック収集の協力率で、調布市は高い、武蔵村山市は少ないなどの差がある理由を出し

て欲しい。

(細見部会長)

協力率 50%を達成するため、他市の状況を調べておく。他市の平均は 20~30%なので町田市も 30%と言ったが、資源化計画の目標 50%をベースして考えなければいけない。

(小林委員)

協力率という用語が突然出てきて戸惑ってしまう。説明の時にわかりやすくする工夫が必要。

(事務局)

協力率は資源化率と同じことである。基本計画では、協力率という言葉は使っていなかった。今後は、「資源化率（協力率）」と表記する。

(細見部会長)

新しい言葉を使う時には定義や分かり易い注釈を付け加えるようする。

(高橋清人委員)

焼却施設の能力を決めるべき。協力率のケーススタディの数値を出して欲しい。

(細見部会長)

最終受け皿の焼却施設が破綻しないよう、協力率の幅を持って検討すべき。

(小林委員)

資源化が進むような検討をしていくべき。

(藤井委員)

協力率が 20、30%で想定した燃やすごみ量に対応する施設を作るべき。

(細見部会長)

設計段階では余裕度や変動幅が必要だが、今の計画段階では、考えられるいい方、悪い方の平均で議論を進めたい。

#### **4. 計画ごみ質について**

---

○計画ごみ質をコンサルタントから説明

(小林委員)

メタン化施設は実験的に小さな規模で提案したい。一極集中で大きな施設を作ることには地元  
の抵抗があると思う。

(藤倉委員)

小さな実験炉に対して補助金が出る仕組みは無いので、市の税金で建設することになる。増設に対する補助金の仕組みが無い。町田市の税金が少なくなくて済むことも条件として考えた方がいい。

(藤井委員)

多摩市のエコプラザ多摩での 5t/日のプラスチック処理を参考にすると、町田市は 10t/日×2 系列が妥当ではないか。増設には補助金が出ないので、40t と今回計画しては。

(事務局)

40t で計画するかは、今後詰めていく。

(小林委員)

第一段階の何十 t 分に対して、補助金は下りないのか。

(藤倉委員)

その施設計画が合理的か環境省が一番重要視すると思う。メタン発酵施設の全市的な計画を立て、地理的に離れているから第一段階でこの地域に、将来人口が増えるから建物は大きく作るが、ラインは最初は 2 つとするなど、補助金が出る可能性はある。

(細見部会長)

資源化基本化計画は、将来 10 年後を見据えて作成したので、これをベースに施設を作っていく。

## **5. 第4回検討委員会における質問事項への回答**

---

○資料3「第4回検討委員会におけるご質問事項への回答」をコンサルタントから説明

○質問1の回答

(藤井委員)

メタン化施設では、設備の電気使用量が、発生量より多い設備がある。資源回収のための設備ではない。

(細見部会長)

②北海道中空知衛生施設組合と⑥京都府カンポリサイクルプラザへヒアリング予定。

(高橋清人委員)

アンケートでは、メーカーは技術の良いことしか言わないので、稼動したときの問題を知りたい。

○質問3の回答

近年の焼却炉はガス化溶融炉が主流の中、あえてストーカ炉を選択した自治体があるが、その実績を調べるべき。

○質問2の回答

(藤倉委員)

処理技術選定のため、メンテナンスコスト、技術の安定性、実績、排出物の量、大気汚染、水質汚染の影響等、選評価項目が必要。

(細見部会長)

A方式、B方式など、3、4つに絞って評価する。

メタン化施設の残渣は焼却するので、焼却炉と同じ場所に建設することになる。

(小林委員)

資源化施設は、3箇所ぐらいに分散して建設する方がよい。リサイクル広場も3箇所ぐらい必要。

(藤井委員)

町田市は生ごみ収集をなぜ断念したのか。

(細見部会長)

一般廃棄物基本計画の時にも色々議論しましたが、生ごみの収集システムが今のやり方でプラスチックだけを分別をし、生ごみだけ単独という収集は無理だという結論になりました。

(事務局)

視察した自治体は、バケツで生ごみ収集を実施していた。人口の少ない田舎だから実施できた。町田市のような場所では臭気などの面で困難だと判断した。名古屋市でも検討していたが断念した経緯がある。

## **6. 事務連絡**

---

○次回整備基本計画専門部会

10月31日(月) 14:00~16:30

12月 8日(木) 16:30~19:00